

令和4年度学校評価計画書

R4 R3

項目	具体的取組	主担当	現状	評価の指標	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	調査対象者 調査期間	達成度	判定	達成度	判定
									前期	後期	前期	後期
1 確かな学力の育成 ☆	① 基礎学力の育成	帯タイムや補充学習、合格テストによる基礎学力の育成	学力向上部 安藤	○昨年度の教師アンケート「あつぷUPタイムでは、児童の基礎学力の向上に結びつくような指導をしているか。」では、前期100%、後期97%であり、教師の意識は高いと言える。 △児童の個人差や学年差が大きく、基礎学力の定着に差があるといえる。 △昨年度の学期末テストの平均点の達成度は、前期59%、後期75%であった。1年を通しての成果は見られるが、定着は不十分と言える。	努力 成果	T:「帯タイムや補充学習、合格テストを通して、基礎学力を身につけさせるための指導を個に応じて行っている。」 点数:学期末テスト(国語は裏のみ・算数は裏表)の各学級平均点が全国平均を上回った割合	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない 4:全国平均+3点以上 3:全国平均以上+3点未満 2:全国平均未満-3点未満 1:全国平均-3点以上	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満 ○4+3が A:100%以上 B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7-12月	学期末 テスト		新 C
	② 授業力の向上	学び合いの基本「聞く・話す・反応する・書く」力の育成 校内研究「学び合い後半の充実」による授業力の充実 ・指導力アップ目標の浸透 ・授業構想シートの質の向上	学力向上部 北川	○児童と職員「聞く・話す・反応する」力の意識は向上している。 △取り組みに学級差・学年差があり、徹底できていない。 ○授業構想シートなどを用いて、日頃から重点を意識して取り組むようにしている。 △研究の重点について取り組みが徹底できていない。	成果 努力 満足度 努力	S:授業で、聞き方名人・話し方名人・反応名人ができています。 T:学級の児童は聞き方名人・話し方名人・反応名人が身についている。 S:授業は、わかりやすい。 T:学校研究の重点「授業後半の充実」について、日頃から意識して授業に取り組んでいる。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない 4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない 4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない A:4+3が90%以上 B:80%~90%未満 C:60%~80%未満 D:60%未満	○4+3が A:90%以上 B:80%~90% C:60%~80% D:60%未満 A:13学級 B:11~12学級 C:9~10学級 D:8学級以下 A:4+3が90%以上 B:80%~90%未満 C:60%~80%未満 D:60%未満	全児童 7-12月 全教員 7-12月 全児童 7-12月 全教員 7-12月		新 新 新 新	
	③ 思考力の育成	・調査問題を活用した検証問題の実施 ・読解力向上問題の利用	学力向上部 湯上	○これまでの学習を生かしながら、調査問題を解いている。 △三角ロジックを用いて記述したり、算数用語を使い条件に沿って的確な説明をしたりすることが弱い。	努力 成果	T:条件に沿って三角ロジックを用いて記述することや、算数用語を用いて書くことを児童に指導している。 点数:各学級における検証問題(国語・算数)を条件に沿って解答している児童の割合。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない A:4が80%以上 B:4+3が80%以上 C:60%~80%未満 D:60%未満 ○全ての条件を満たして正答している児童が A:80%以上 B:70%~80%未満 C:60%~70%未満 D:60%未満	全教員 7-12月 全児童 7-12月		新 新		
2 よりよい健康習慣を身に付けようとする児童の育成 ☆	④ 基本的健康習慣を定着させる取組	・早寝早起きを推奨し、学年に応じた睡眠時間を示すとともに各家庭に応じた起床・就寝時間を親子で考える機会をもつ。家庭と連携し、健康チェックカードの毎日の記録も続けスムーズな登校につなげる。	保健安全部 燈明	△SNSの利用時間の長い児童は、就寝時間も起床時間も遅く、不登校の一因にもなっている。保健たよりや健康チェックカードでの取り組みや、すくすく集会での啓発も行ったが、基本的な生活習慣の定着には至っていない。	成果	S:家庭で決めた就寝・起床時間を守っている。 P:お子さんは、約束の就寝時間を守るように努めている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない 4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満 ○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7-12月 全児童 7-12月		新 新	
	⑤ 自己有用感の育成	・良い姿を見せた児童がいた際は、その場ですぐに認めていく習慣を、教師・児童共に習慣にしている。 ・終礼等の情報交換タイムでは、他の児童にとって手本となる児童や学校のために頑張っている児童の姿を共有する。 ・行事等活動では、めあてを持たせて取り組ませ、活動後にはふり返りの場を設定する。その際、自分が周りにどう役立てたか考えられるようにする。	特活部 清水	昨年度後期で、89%の児童が自分にはよいところがあると感じたと答えていた。	満足度 努力	S:クラスや学校にとって良いと思うことを、自ら進んで行っている。 T:行事などの活動では、個々に目標をもたせ、活動後にはふり返りの場を設定している。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない 4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満 ○4+3が A:100%以上 B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全児童 7-12月 全教員 7-12月		新 新	
4 自分で考え、進んでよりよい行動ができる児童の育成 ☆	⑥ 進んであいさつする態度	・生活目標による重点取組月間の設定 ・グッドマナーキャンペーン時の自己評価シート ・児童会と連携したあいさつ運動やキャンペーンの実施	生徒指導部 鶴田	昨年度後期、児童は57%が進んであいさつできていると回答しているものの、6%の児童が否定的評価(O・D)に回答している。 昨年度後期、93%保護者は時と場に応じたあいさつができていたと回答している。	成果 努力	S:いつでも、どこでも、だれにでも すんであいさつをしている。 P:子どもに、時と場に応じたあいさつを指導している。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない 4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4が A:80%以上 B:70%以上80%未満 C:55%以上70%未満 D:55%未満 ○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7-12月 全児童 7-12月		新 C	
	⑦ いじめ防止	・いじめ防止基本方針と具体的な取組を共通理解する ・児童会を活躍させるなど、児童主体でいじめ防止活動に取り組む ・どんな言動がいじめにあたるのかを児童に指導する。 ・いじめに関する学校の様子や取組をHPや生徒指導便りや積極的に伝え、家庭と連携する ・毎週1回ずつ、児童の情報の共有および個人カードの記録を終礼前に行う ・i-checkアンケートやいじめアンケート、ハートチェックなどの各種アンケートの情報をもとに面談を行い、日々の取組に活かす。	生徒指導部 鶴田	・昨年度後期、98%の子がいじめはどんな理由があってもいけないと感じている。 ・昨年度後期で、92%の保護者が学校はいじめに関する取組を伝えていると感じている ・昨年度後期、89%の教員が迅速な対応、個人カードの記入を行っている	成果 努力	S:いじめはどんな理由があってもいけないと思う。 P:学校は、いじめの未然防止や早期発見のための取組を伝えている。 T:配慮が必要な児童の様子について、情報を記録・共有し、活用を図っている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない 4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4が A:100% B:95%以上100%未満 C:90%以上95%未満 D:90%未満 ○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7-12月(市7) 全保護者 7-12月(市7) 全教員 7-12月		98% 92% 新	
	⑧ 基礎技術の習得	・教師が授業中にタブレット端末を利用した授業を設定する。 ・児童にミラシード(オクリンク等)・インターネット検索・動画・写真撮影等を積極的に使用させ、習熟を図る。	ギガ推進部 土田	・児童はタブレット端末の使用に意欲的である。 ・タブレット端末を授業の中で使用するのが難しい学年がある。(特に低学年) ・児童のタブレット操作には差があり、特にタイピングスピードには大きな差がある。	成果 努力	S:ミラシード(オクリンク等)・写真・動画撮影・インターネット検索・クラスルームの参加・スライド・スプレッドシート等を使うことができる。 T:授業中に、児童にオクリンク・写真・動画撮影・スライド・Googleフォーム等を使わせていますか。	4:1人で使える 3:友達とグループで使える 2:先生と1対1でないと使えない 1:使い方がまったくわからない 4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満 ○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7-12月 授業担当 教員 7-12月		新 新	
5 学習場面に応じた1人1台端末の効果的活用 ☆	⑨ 授業の進め方をより効果的にするために効果的活用	・タブレット端末を効果的に使った授業の紹介を各ブロックのGiGA担当を中心に行う。 ・他校のタブレット端末の効果的な活用事例をお便りで紹介する。	ギガ推進部 土田	・R3年度の調査では89%の教師がタブレット端末を活用した学習を行っている。 ・タブレット端末を有効に活用する授業を国語や算数で実施するのが難しい。 ・活用例についての研修がまだ進んでいないといえる。	努力	T:児童がタブレット端末を有効に使う授業を行っている。	4:チャレンジして複数教科で有効な活用ができた。 3:チャレンジして有効な活用ができた(1回以上) 2:チャレンジしたが、有効な活用ができなかった。 1:チャレンジしなかった。	○3ヶ月の統計をとる。 1ヶ月の平均が2.3以上の教員数の割合 A:50%以上 B:40%以上50%未満 C:30%以上40%未満 D:30%未満	授業担当 教員 毎月の学年会		89% C	